

初めて知る「戦争」、考える「平和」を伝えよう

指導者 島本 佳代子

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
- カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

(1) 単元観

本単元は、戦争や平和について書かれた複数の本を比べて読み、それぞれの本で描かれている「戦争」「平和」について考えたことを話し合い、「推薦リーフレット」にまとめ、読み聞かせに来ていただいている方に読んでいただく活動を通して、「戦争」や「平和」について自分の考えを深めることをねらいとしている。

本教材は、戦争という悲惨な状況において、それを乗り越えて成長していくヒロ子の生き方が、「わたし」の視線を通して語られている。ヒロ子の決して恵まれているとは言えない環境の中で強くたくましく生きる人間の姿を戦争の悲惨さと対比して読むことで、人間の生き方について深く考えることができる作品である。戦争について書かれた作品は、児童の生活体験からは遠いものであるため、複数の本を読み比べたり、読んだ内容に関連付けたりして理解を深める価値が高く、同じテーマの本を複数読み比べることに適した教材である。さらに、児童はこれまで他教科で学習した戦争の悲惨さや非人間性等も振り返りながら、ヒロ子や「わたし」に自分を重ね、本教材のテーマについて深く読み取ることも期待できると考える。

そして、戦後70年目を迎えた今年、この作品をきっかけに戦争や平和を描いた本へと読み広げ、そこで考えたことを交流することにより、友達との感じ方の違いや共感する部分があることに気付き、再度物語を読み返した時、さらに自分の考えを広げたり深めたりすることができると思った。これが、中学校第1学年の「C読むこと」目標(3)にある、「読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる」ことにつながるよう、本単元を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、20人の児童が読書を好み、進んで様々な本を読むことができる。しかし、1学期中に戦争や平和に関する本を2冊以上読んだ児童は8人と少ない。また、読書後の感想を交流したことはあるが、共通点や相違点について話し合ったり、観点を決めて読み比べたりして、読書の幅を広げる学習活動は十分行っていない。

思考力・表現力の実態

単元末テストの結果から、物語に書かれている内容を正しく読み取ることは18人の児童ができています。「風切るつばさ」の学習で、叙述を基に物語の主題を正しく読み取り、自分の言葉で考えをまとめられた児童は19人だった。

しかし、表現の仕方が分からず自信がないという理由で、自分の考えを表現することが苦手だと感じている児童が9人いる。また、語彙が少ないという課題から1学期から語彙表を掲示している。書く活動の際は意識して使うようになっているが、定着は不十分である。

(3) 指導観

単元の冒頭では、「戦争や平和に関する図書に触れる機会が少ない5年生に、自分が心に残った本を推薦する」という単元全体の課題となる相手と目的を明確にする。これにより、5年生に分かりやすく本の内容を推薦するために、戦争や平和に関する本を複数読む必要感をもたせる。推薦リーフレットに書く内容を考えるために、平成25年度全国学力実態状況調査国語B問題③を用いる。問題にある2つの推薦文を比較することで、推薦する対象や理由を捉えなければならないことや、推薦の6つの観点(①文章の形態②登場人物③叙述・表現④展開・構成⑤テーマ⑥作者)を理解し、自分のリーフレット作りに役立てられるようにする。

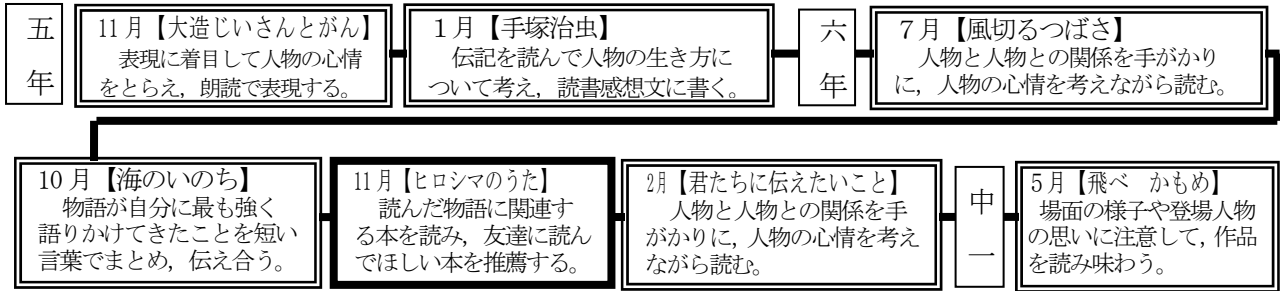
リーフレットには、題名、人物関係図、作者についての解説、この本で描かれている「戦争」についての意見文を載せる。意見文の内容は、同じ戦争を題材にして描きながら、それぞれの物語ではどのような意味付けがされているのか、そこから読み手である児童自身がどのような思いをもったのかを学習後まとめることで、本の内容についてだけでなく、戦争がもたらす悲しみや憎しみがどれほど大きなものであるか感じることができると考えた。

リーフレットを使って自分の選んだ本を推薦した後、5年生からの感想や自己評価を踏まえて成果と課題を明らかにして、次の学習へつなげられるようにする。また、複数の本に関連付けて読むことで作品をより味わいやすくなったことを振り返らせ、観点を決めて比べて読む読み方、読書の新たな楽しみ方に気付かせ、日常的な読書にも生かしていく。

2 単元でめざす児童の姿

- 関連する複数の本を比べて読むことに関心をもち、読み聞かせの方に推薦するためのリーフレットづくりに取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 中心人物の心情の変化や、終末の書かれ方について、「戦争」や「平和」について自分の考えをまとめている。(読むこと)
- それぞれの本で描かれている「戦争」や「平和」がどんなものであるか、複数の本を比べながら読んでいく。(読むこと)

3 領域「読解」の系統



4 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	関連する複数の本を比べて読むことに関心を持ち、進んで取り組もうとしている。	複数の本の「戦争」や「平和」の描かれ方を比べ、それらがどのように異なるのかについて、読み取ろうとしている。	文章における語句と語句との関係を理解している。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、相手意識・目的意識を明確にして複数の本を関連付けながら読み、読み聞かせの方に推薦するためのリーフレットをつくる活動を通して、課題発見・解決力（スキル）を育むことができると考える。また、複数の本の共通点・相違点を考えながら読み、自分なりの「戦争」や「平和」に対する思いを小集団で話し合い、協働して自分の意見を再構築することを通して、建設的批判能力（スキル）やグローバル社会を生き抜く高い志・使命感（価値観・倫理観）を育成できると考える。

6 指導計画（全9時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	課題の設定① 教材文の初読の感想を持ち、読み聞かせの方にリーフレットで推薦するという活動の相手・目的意識を明確にする。 (1) 戦争や平和について書かれた本のブックトークを聞き、推薦する本を決める。 (1)	課題意識をもって物語を読もうとしている。【関・意・態】（ノート、行動観察） 推薦する本を決め、その理由として叙述を根拠にまとめている。 【読む】（ノート、発言）	学習活動のゴールである相手と目的を明確にもち、単元の課題を設定している。 (ノート)
二	情報の収集 教材文・自分で選んだ本の物語の設定、構造分析をする。 (2)	物語の構造や設定を読み取っている。 【読む】（ノート、発言）	
	整理・分析 戦争中と戦後での変化、終末の書かれ方の2つの観点に沿って、教材文と自分で選んだ本の戦争や平和の描かれ方について読み取り、リーフレットにまとめる。 (2) (本時6/9)	2つの観点に沿って、複数の作品を比べながら読んでいる。 【読む】（リーフレット、発言）	自分と異なる意見が出た際、まずは相手の意見を受け入れ、自分の意見との違いを具体的に説明したり、根拠を挙げて説得しようとしていたりしている。 (行動観察)
三	まとめ・創造・表現 ふりかえり① リハーサルとしてクラスの友達に推薦し合い、助言を受けて修正・加筆する。 (1) リーフレット使って、自分で選んだ本を5年生に推薦する。 (1)	5年生に分かりやすく推薦できるよう、リーフレットの内容を吟味している。 【読む】（リーフレット、行動観察） 5年生に分かりやすく推薦しようとしている。 【関・意・態】（行動観察）	初めて知る戦争の影響や悲しさ、求めていかねばならない平和について考え、これから大人になる自分たちが何をどのように行動したり伝えたりするのか考えている。(リーフレット)
	ふりかえり② 課題の設定② 自己評価と5年生の感想から、成果と課題を見付けたり、この単元で身に付いた力を振り返ったりして、次単元へつなげる。 (1)	複数の本を比べて読み、5年生に推薦するという活動で、何ができるようになったか、何が不十分であったかを振り返っている。 【関・意・態】（行動観察）	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

教材文「ヒロシマのうた」と、自分が心に残った1冊について、終末の書かれ方の共通点や相違点について話し合うことを通して、それぞれの本の「戦争」や「平和」についての描かれ方の違いに気づき、自分の考えを深める。

(2) 観点別評価規準

「終末の書かれ方」の観点で複数の作品の共通点や相違点を比べながら読み、「戦争」や「平和」について自分の考えをまとめている。 【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★）
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの「ヒロシマのうた」における戦争の描かれ方を振り返り、板書のピラミッド・チャートの一番上の層に書く。 	
終末の書かれ方から、どんな「戦争」や「平和」が描かれているのか考えよう。		
2 「私の1冊」についてどんな「戦争」や「平和」が描かれているのか読み取り、付箋に書く。	<ul style="list-style-type: none"> 「石うすの歌」「てっぽうをもったキジムナー」「いわたくんちのおばあちゃん」「おりづるの旅」「東京大空襲」の5つの作品のグループに分かれ、終末の書かれ方から、どんな戦争を作者は描いたのかを付箋に書く。 付箋は、作品ごとに色分けして配布し、後のグループ活動でどの作品の意見なのか分かりやすくする。 ◆ 登場人物の年齢や環境、家族の状況、場所等、誰が、どこで、どうなったのかを確認させたり、戦争によってそれらがどうなったのかを考えさせたりすることで、作品による「戦争」の描かれ方を読み取らせやすくする。 ◆ 同じ作品を選んだ児童を近くに集めた座席にすることで、自分の疑問を話したり友達の意見を聞いたりして解決しやすくする。 	
3 「ヒロシマのうた」や児童が選んだ5つの作品の共通点・相違点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループから1名ずつ集まってグループとなり、自分の選んだ作品について意見を言いながら付箋を貼り付けていく。 ベン図を拡大した模造紙に、自分の選んだ本について書いた付箋を張り付けていくことで、「ヒロシマのうた」や、他の作品との共通点や相違点を視覚的に分かりやすくする。 ピラミッドチャートで意見を整理していくことで、同じ「戦争」を題材にして描きながら、それぞれの物語で様々な形で意味付けされていることに気付かせる。 	★ 自分と異なる意見が出た際、まずは相手の意見を受け入れ、自分の意見との違いを具体的に説明したり、根拠を挙げて説得しようとしたりしている。（行動観察）
4 「私の1冊」で描かれた「戦争」「平和」についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ作品を選んだ友達との話し合い、違う作品を選んだ友達との話し合いを通して、自分の戦争に対する思い、作者が伝えなかった思いをリーフレットにまとめる。 	○ 「終末の書かれ方」の観点で複数の作品の共通点や相違点を比べながら読み、「戦争」や「平和」について自分の考えをまとめている。
5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの視点（学習課題・学習方法・学習内容・次時に向けて）を意識させることで、本時の学びを自覚できるようにする。 	【読む】（ノート）

